（様式１）

県立江戸崎総合高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

1　基礎学力の向上と個に応じた学力の定着に向けた授業改善
2　基本的生活習慣の確立と規範意識の育成
3　進路希望の実現と指導体制の確立
4　地域と連携した学校づくりの推進
5　生徒の主体的活動の充実

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、他者との協働や地域社会との交流を通して自己の在り方生き方を考えながら、課題の発見、解決、成果の伝達ができるようにするために以下の資質・能力を育成する。

1　探究活動の過程において、社会人として、たくましく、よりよく生き抜くために必要となる基本的な知識や技能を身に付けさせる。
2　地域社会と連携した活動から、よりよい郷土を形成するための問いを見いだし、仮説を立て、調査・分析する能力を身に付けさせ、他者へ論理的に説明できる表現力を育成する。
3　課題を解決するため、協働して取り組むことの大切さに気づかせるとともに、地域や社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

1　学習や活動における取組状況や作成した資料（ワークシート）、レポート、ノート、振り返りシート等を評価の対象とする。

2　江総 Portfolio の活用による学びのふり返りと蓄積（自分史づくり）を評価に加味する。

3　年間指導計画に位置付けた目標及び評価規準の設定を行う。

生徒の実態

1　主体的に他と協力しながら行動できる生徒がいる一方で、コミュニケーションのつまずきで人間関係に悩む生徒もいる。

2　生徒一人一人の進路希望は多岐にわたっている。

3　思いやりがあり、他人の気持ちを考えながら行動しようとする生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

1　スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携

2　授業のユニバーサルデザイン化を図るため特別支援教育の視点を取り入れた授業実践

目指す生徒の姿

1　自己を社会人としてイメージし、自らの身なりや振る舞いを律することができる態度の醸成

2　他者の思いや考えを想像し共感するとともに他者を大切にできる態度の醸成

3　各種行事、部活動などの特別活動を生徒主体で組織的に運営できる態度の醸成

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

●１年次
Ⅰ探究活動①
(1) 探究の過程である課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現を理解する。
(2) 具体的な調査分析の結果をまとめ、表現することができる。
(3) 多様な立場の意見を理解し他者と意見交換できる。
Ⅱ探究活動②
(1) 探究の過程である課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現を理解する。
(2) 課題を自ら考え設定できる。
(3) 他者の立場を尊重するとともに、自分自身の多様な在り方を理解する。
Ⅲ探究活動③
(1) 探究の過程である課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現を理解し実践できる。
(2) 集めた情報を整理できる。
(3) グループの中で自分の役割を見つけ、積極的に活動できる。
Ⅳ探究活動④
(1) 生徒各々が自分自身を理解し興味関心がある事をテーマに選ぶ。
(2) 選んだテーマに対して深く調べ、グループとしての意見を発表できる。
(3) 他者と協働して多様な考えを集約できる。
●２年次
Ⅰ労働と実社会との関わり
(1) 各職業の役割や意義について、地理・歴史を含む社会的背景と関連付け、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
Ⅱ特色ある町づくり
(1) 地域社会の伝統、文化について、地理的条件や歴史と関連付け、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
Ⅲ生活文化の多様性と社会への理解
(1) 自分たちと関わりのある地域の伝統、文化について、地理的条件や歴史と関連付け、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
Ⅳ労働と地域社会との関わり
(1) 地域社会に密着して活動する企業や人々について、歴史・文化的背景のなかで総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
●３年次
Ⅰ自己分析
(1) 自己を見つめ、適性や特性を見出して社会的背景と関連付け、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
Ⅱ自己実現
(1) 自分の希望進路と社会とを関連付け、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。
Ⅲ探求の記録
(1) 自らの探求活動について、総合的な理解ができる。
(2) 課題における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見付けている。
(3) 自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとする。

学習活動、指導方法等

●学習活動
生徒の興味・関心や進路希望、進路状況及び地域の実態をふまえて実社会・実生活との関連を重視するとともに、体験活動を取り入れた学習活動を展開する。

●指導方法
1　協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

2　個に応じた指導の工夫を行う。

3　探究活動における４つの過程のうち、特に、「整理・分析」及び「まとめ・表現」では、言語活動を重視する。

●使用教材
1　協働的な学習を促進させるためのワークシートを積極的に活用する。

2　江総 Portfolio の活用による学びのふり返りと歩みの蓄積を重視する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

●校内の指導体制
各年次において、所属する職員が全員で指導にあたる体制を組織するとともに、各年次と各校務分掌の協力体制を構築する。
●地域との連携
1　勤労観・職業観を育成するため、近隣の企業・事業所、大学、専門学校の人的・物的資源の効果的な活用を図る。
2　地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを深めることで連携強化を図る。
●保護者の協力
年度末に実施する成果発表会への積極的な参画を促す。